狛江を見る

1

2

3

4

5

6

7

8

1 亀塚古墳

帆立貝形の前方後円墳で、昭和 26 年に発掘調査が行われ、銅鏡や馬具など、多くの遺物が出土しました。その後、墳丘の大部分は削られてしまい、現在は前方部の一部のみが残っています。現地には、徳富蘇峰の揮毫による「狛江亀塚」の石碑が建っています。

住 狛江市元和泉 1-21 Map C-5

2 泉龍寺

奈良東大寺別当の良弁僧正が草創したといわれています。江戸時代後期の地誌『江戸名所図会』にも紹介された名所のひとつで、境内の本堂、鐘楼門、山門、開山堂は江戸時代後期の建築になります。本堂に安置されている子安地蔵は、まわり地蔵と呼ばれる巡行仏で、巡行の地域は広範囲に及びました。

住 狛江市元和泉 1-6-1 Map C-5

3 玉川碑（万葉歌碑）

『万葉集』巻 14 の東歌の一首が刻まれた歌碑で、松平定信が染筆した書を彫刻したものです。文化 2 年（1805 年）に多摩川沿いに建てられましたが、文政 12 年（1829 年）の洪水によって流失しました。大正 13 年（1924 年）、狛江村の有志が奔走し、渋沢栄一をはじめとする財界人から多額の寄付と協力を得て、現在地に旧碑を模刻した新碑が建てられました。

住 狛江市中和泉 4-14 Map A-4

4 岩戸八幡神社

岩戸八幡神社の由緒には、次のような伝承があります。永禄元年（1558 年）に、鎌倉の鶴岡八幡宮の神前にて八幡神体を懸賞にした大相撲が催されました。世田谷城主の吉良頼康に従っていた岩戸の秋元仁左衛門（鬼五郎左衛門）という人物は、この大相撲に勝ち、岩戸に八幡神像を持ち帰って八幡神社を勧請したといいます。

住 狛江市岩戸南 2-8-2 Map E-6

5 兜塚古墳

東京都指定史跡の古墳です。高さ約 5 m、直径約 36m の円墳で、築造された当時の形をほぼとどめています。周溝内からは、円筒埴輪の破片が出土しており、6 世紀半ば頃に築造された古墳と推定されます。

住 狛江市中和泉 3-23 Map B-5

6 玉泉寺

市内の古刹の一つで、北条氏政の祈願所だったといわれています。多摩川沿いに位置していましたが、たびたび洪水の被害にあい、現在地に移転したといわれます。境内の帝釈堂には、百日咳に霊験あらたかな、おしゃもじ様がまつられ、お参りする人が多く見られました。また、山門右手の「ナンジャモンジャの木」と呼ばれるボダイジュは、市の天然記念物に指定されています。

住 狛江市東和泉 3-10-23 Map C-6

7 弁財天池

奈良の大仏の開眼供養をおこなった良弁僧正が、干ばつに苦しむこの地を訪れ、雨乞いをおこなったところ、竜蛇があらわれて雨を降らし、その時に湧き出た「霊泉」が弁財天池だといいます。この伝説は、弁財天池から湧き出る清水の恩恵に、多くの人々があずかっていた証と考えられます。

住 狛江市元和泉 1-8 Map 狛江駅周辺図

8 伊豆美神社

かつては六所明神と称し、多摩川沿いに位置していましたが、天文 19 年（1550 年）の多摩川の大洪水で流失し、現在地に移転しました。参道にある小振りの石鳥居は、慶安 4 年（1651 年）に建てられたもので、市の文化財に指定されています。神楽殿の脇にある高さ約 4 mの井伊直弼公敬慕碑は、明治 34 年（1901 年）に建てられたもので、こちらも市の文化財に指定されています。

住 狛江市中和泉 3-21-8 Map B-4